ふくろう新聞

社会福祉法人
ひょうご聴覚障害者福祉事業協会
＜発行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
〒656-0002
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページリニューアルしました。順次更新していきますので、よろしくお願い致します。

第17回ふくろうふれ愛まつり

『戻らない時間、戻ってきた日常　今ある笑顔を大切に』のテーマのもと、10月22日(日)、お陰様で今年も「ふくろうふれ愛まつり」を無事に開催することが出来ました。（詳細は二面にて）

ニッセイ財団 高齢社会地域福祉チャレンジ活動助成
～難聴者支援事業の採択は初めて～

今年度はじめ、当法人より「当事者と専門職の連携によるきこえの健康支援体制構築事業」の助成金申請を行いました。それが9月に採択され、10月24日（火）特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷において贈呈式・キックオフミーティングが執り行われました。

この事業は、10月から2年間にわたる事業で目指すことは①聴覚機能が低下した高齢者が気軽に相談できる体制の構築②自分の聞こえを知り、周囲に説明できる力の獲得③きこえに関するリハビリテーション環境の整備を実施。きこえが低下しても生活の質の維持・向上ができる地域作りの実現です。

日本生命財団の高齢社会助成選考委員である上野谷加代子氏（同志社大学名誉教授・日本医療大学教授）・宮城孝氏（法政大学現代福祉学部教授）より、「夢のある事業である。仮説を立て、対象者を絞り、丁寧な支援・アプローチを行い、それを分析・評価する。その結果を全国に発信し、時間はかかるかもしれないが施策に反映させる。また、海外の実践や文献などを参考にして、国内のみならずもっと広い視野を持って取り組んでほしい。」とアドバイスをいただきました。

また、当事者のあわじ中途失聴難聴者の会の小嶋朝子会長は、「会話のスピードについていけず、自分が話そうと思っていても、次の話題に移ってしまっており話すタイミングを逸してしまうことが大いにある。自分が安心して過ごせる場所や仲間と出会える機会が増えることを期待している」と話されました。現在の超高齢化社会において、加齢による難聴者も増加すると考えられます。この事業を通して、きこえに不安があっても、引きこもったり孤立することなく、自分らしく生きられる地域づくりの一助を担えるよう努めていきたいと思います。

（社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会　事務局長　橋詰恭子）

11月1日、「騙してでも子どもを生ませるな」「不幸な子は生ませない」残虐非道な旧優生保護法の不妊手術を巡る国家賠償訴訟は、最高裁判所大法廷で審理される事が決定。最大の争点は、「徐斥期間を認めるか認めないか」公正な判決を！1945年に憲法成立、その3年後、旧優生保護法が成立。「失った私の体は戻ってこない。せめて国の責任が明らかになるまで闘い続ける」

コロナ禍になって約４年、様々なことがありました。そして、入居者の方や職員もそうですが、ご家族の方にも様々な制約をお願いさせていただいてきました。

「第17回」となります今回は、「まず、大切な方と触れ合いをとり戻していただきたい」という思いの元に、午前と午後の二部に分けて実施させていただきました。そのため、来賓の方は招待せずに、ご家族や身近な方のみを限定的に招待させていただくことになりました。

また、しばらく直接、訪問して、ご家族さまの目で見ることのできなかったユニットの様子も少しではありますが、スライド上映会や展示などによりご紹介させていただきました。

当時の状況を話す職員を見て、驚きの声を上げられるご家族の方もおられました。

入居者やご家族の方の表情を見ると笑顔が多くみられたように感じます。今回、本当に短い間でしたが、「実際に大切な方とふれあう喜び」を感じて頂けていたら嬉しく思います。

まだまだ先の見通しが立たない状況ではありますが、少しずつでも以前のような「楽しい時間をとり戻していきたい、取り戻していただきたい」と思い支援に努めていきます。

（生活援助員　木下卓幸）

ふくろうふれ愛まつり　次第

1. 前座（御神楽・獅子舞）
2. 開式の辞
3. 理事長あいさつ
4. テープカット
5. 長寿・節目のお祝い
6. 永年勤続者表彰
7. スライド上映
8. 施設長挨拶
9. 閉会の辞

最高齢者
薩摩勲　さま（101歳）

白寿
柴野つや子　さま

米寿
長野高明　さま
吉見輝子　さま
石川孝司　さま
仲田久子　さま
森智榮美　さま
大北廣枝　さま

喜寿
新居州弘　さま
宮崎俊弘　さま

▶庄崎職員による御神楽

◀普段居室で過ごされる時間が長い入居者も参加されました

◀スライドを使い、入居者の紹介を行い、ユニットの様子を報告しました

永年勤続者
橋詰恭子・山田繁和
山本藍菜・中村久香
平田春江・細川真誉
山田裕美

表彰を受けた職員からは「あと 10 年は頑張りたい。」「入居者や職員に支えてもらったから今の自分がある。これからも頑張りたい。」等の感想が聞かれました。

これからも職員一同力を合わせて頑張っていきたいと思います。

ふくろう物語
薩摩　勲様

大正11年2月11日兵庫県淡路島生まれの101歳です。

とても温厚な性格で、いつも娘様の来訪を心待ちにされています。

令和5年3月から山ユニットにてロングショート利用開始され、その後花木ユニットへ長期入居となりました。

今回、娘さまからお話を伺うことが出来ました。

仕事を経て中国へ

薩摩さまは4人兄妹で2番目だそうです。淡路島の南淡路の中学校・高等学校を卒業され、毎日自転車で通学しておられたそうです。卒業後、東京の国家公務員の林務省の仕事を数年されておられました。娘様も「立派だった」と仰られていました。その後、戦争の時代だった為、数十年にもわたり中国へ徴収され生活されておられました。

ご家族からみた勲さま

娘さまに「どんなお父さんでしたか？」と伺うと、「家の洗濯物を畳んだり、洗い物をしたり家事なども手伝っていて、また人一倍努力家で穏やかでいつも笑顔で、物事など何にでもこだわりがなく、また、物に執着心がない性格で、私がいつ会っても怒らない穏やかで温厚な性格の尊敬する親です。」とお気持ちを述べられています。

薩摩さまは平成27年7月までご自宅にて独居生活をされておられました。その後、病気や身体の自由が利かなくなってきたため、次女さま宅にて生活されることになります。デイサービス・ショートを利用して趣味の囲碁を楽しまれておられました。しかし、そちらでの生活も難しくなり、ふくろうの郷へ入居されることになりました。

ふくろうの郷で生活されるようになってからも毎朝の日課として、神戸新聞を20分程読まれています。その後は居室にてテレビ鑑賞されておられます。

何が好きですかと尋ねると、「甘い食べ物が好き。」「ご飯よりパンの方が好み。」「甘いジュース（カルピス・オレンジ、いちご）が好き。」「まんじゅうが好き。」「食べる事が好み。」と答えてくださいました。

ご本人の楽しみとして週1回のとくし丸にてお寿司などを購入して美味しく食べられています。また、面会にご家族が来訪してくださった際も、まんじゅうなど笑顔でおいしそうに食べられています。

趣味である囲碁を少し職員とした時は、とてもいきいきと目が輝いていました。

単語などを耳元で話かけたり筆談ボードに書いて伝えると、いつも笑顔で受け答えしてくれます。名前を呼ぶと、「おー、こんにちは」「すまんのう」と、穏やかな返事をしてくれます。何か介助などの支援を終えると、「ありがとう」「バイバイ」と手を振ってくれることもあります。薩摩さまと関わる中で、「1日1日を大切に生き、大切に時間を使いたい」と自分自身が思えるようになりました。一瞬一瞬を大切にし、コミュニケーションを大切にして、ふくろうの郷での暮らしを充実させていけるように支援していきたいです。

（生活援助員　畠ひづる）

11月 ふくろうの暮らし

11/ 1(水)	誕生日会
11/ 6(月)	ふくろう理髪店
11/ 7(火)	ふくろう大学演劇講座 新型コロナワクチン
11/ 8(水)	手話講座
11/ 9(木)	回想法
11/15(水)	ふくろう喫茶
11/18(土)	ふくろう大学書道講座
11/24(金)	ふくろう大学料理講座
11/29(水)	総合避難訓練

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館３階

令和５年度

9月17日(日)から10月29日(日)までの全5回、要約筆記啓発講座「コミュニケーション支援について学びましょう」を開催しました。手話以外のコミュニケーション方法にも興味をお持ちいただいた方14名の申込がありました。

1回目は「耳の仕組み」の講義。2回目・3回目は「要約筆記あわじ」が講師となり、参加者同士で筆談体験（ノートテイク）や要約筆記体験をしました。前半は、聞こえてくる話を「速く・正しく・読みやすく」に気を付け1分間に何文字ぐらい書けるかを知ります。速く書こうとすると字が小さくなるし、漢字は出てこないし、話に追いつかないし…と皆さん悪戦苦闘。ところが後半、ロール紙にペンで書くと皆さんの表情が一変。「初めてなのに書きやすい～楽しい～」と笑顔でのびのび書いておられて講師も驚いていました。

▲最終日、要約筆記サークルの方と交流する参加者

■口話の大変さを実感

4回目は、あわじ中途失聴・難聴者の会の例会の様子を見学しました。今回は読話の学習で、元淡路ろう学校教諭の山田政男氏が講師となり、新聞記事や時節の話、四字熟語などを話される口元をみて、難聴者が読み取った言葉をメモしていきます。ゆっくりと繰り返し話してくれますが、口の動きだけを読み取るのはなかなか至難の業です。

「最初の言葉が読み取れなかったり、単語などの一部分を読み取れたとしても全体の内容が掴めない」と難聴者の方が話されていました。

受講生は、「口話だけで伝えたり読み取るのは難しい。口形は同じでも間違った情報を受け取ってしまう可能性があることを知った。」「要約筆記はわかりやすくコンパクトにまとめていて勉強になった。」と感想をいただきました。

最終日は洲本市福祉課の田中暁大氏から福祉の制度をお話いただいたり、要約筆記サークルの方と交流しました。要約筆記に興味を持たれ、早速サークルに入会申し込みされた方もおられました。（酒井・瀬田）

淡路の伝統料理について知ろう
第５回社会生活教室

▲講師から「ちょぼ汁」についての説明を聞く参加者

今回は北淡路農業改良普及センターの辻惠子氏に出前講座「淡路の伝統料理」のテーマで「ちょぼ汁・ちらし寿司」をご指導いただきました。

まず、ササゲは長いさやに沢山の豆が詰まっていたり、ズイキは赤イモの茎だったりと干す前の実物を見ながら材料の説明を受けました。出産した子どもが、女の子の場合はまあるい形、円錐形は男の子など性別で団子の形が違うことを教わりました。

ちょぼ汁は母乳が良く出るように出産した時に食べる風習があり、昔、親に作ってもらったことを思い出しながら「懐かしいね」「昔は美味しくなかったけれど、今日はおいしいね」など会話も弾みました。辻氏は美味しくないと作らなくなり伝統料理が廃れてしまうので時代に合わせながら継承されるよう工夫していると話されました。

今日は指示されるわけでもなく、みんな手際よく料理や洗い物など作業したり、男性も積極的に調理をし、薄焼き卵を上手に焼き、刻んでいました。ある女性は「出産時に食べたが、その後、家で作るわけでもなく久しぶりに食べたくなり申し込んだ」など思い入れも強く美味しそうに食べられていました。

みんなで作った料理は一層おいしく感じられたようで2杯、3杯とお代わりしていました。（岡本久子）

中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター

〒 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL　0799-28-0990
FAX　0799-28-0992

大感謝！販売早々おどろき完売！

10月8日(日)、洲本市社協ふれあいまつり(洲本市やまて会館)にパン・焼菓子販売で参加しました。今にも雨が降りそうな天気でお客様が来られるか心配しましたが、午前中は多勢のお客様で賑わいました。お陰様で持っていったお菓子はほぼ完売しました。他の福祉事業所も参加していて、以前おのころの家に通っていた人たちとも久し振りに会う事ができました。

10月28日(土)、第19回兵庫県聴覚障害者文化祭が、4年振りに神戸市灘区民ホール5階大ホールにて開かれました。おのころ屋のパンや焼き菓子を心待ちにしてくれているだろうと利用者さんも一緒に頑張って準備しました。会場に着いて、開店準備を始めるやいなやお客様が押し寄せました。お客様から「久し振り！待ってたよ。」

「おのころ屋のお菓子おいしいから！」などとたくさんの声をいただきました。

舞台では、太鼓や手話落語が披露されていましたが、ゆっくり見る暇もなく、1時間足らずでパンはほとんど売り切れました。

会場やロビーでは、手話が飛び交っていました。規制なしでのイベントで、久しぶりに会う人も多く、笑顔で溢れかえっていました。是非来年も模擬店参加したいです。

（おのころ屋支援員　藤本）

レク活動
「吊り植木鉢作り」

10月23日(月)、小林先生によるレク活動の日でした。今回は多肉植物の鉢をいれるカバー、吊り植木鉢を作りました。ヨーグルトの空き容器の周りをいろいろな色のビニールテープを巻き付けていき自分だけの鉢を作っていき、最後に吊れるように柔らかい針金のようなものを通して完成。今回は簡単に来上がりましたが、みんなの関心は「多肉植物」にありました。初めて聞く言葉、初めて見る植物に先生の説明をよく聞き、また育て方の質問をしたりと作ること以外にも楽しみもあったようです。

（支援員　興津）

農作業班の取り組み

今年度のタマネギの出荷作業が9月12日に無事終了しました。その後、冬の作業の準備として椿製品加工用の椿の実採集や、近畿ろうあ者大会の記念品として、タマネギの袋詰め作業を皆で行いました。椿の実採集は木の上を見ながらの作業の為、皆首が痛いと言いながらもたくさん集める事ができました。また地域支援の草刈りも同時期に行っており、忙しい日々を過ごしておりました。

現在、農業班は来年収穫のタマネギ4種のタネ撒きを終え、育った苗の定植作業を行っております。

（職業指導員　矢田）

神戸長田ふくろうの杜
兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
〒653-0836 電話：078 798 7940
FAX: 078 798 7941

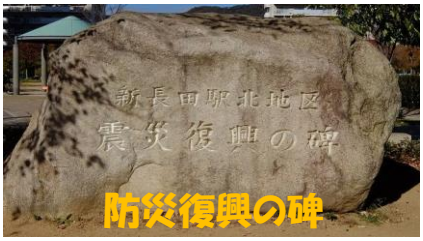
地域の「ふれあいまつり」に参加して

10月22日（日）地域の公園「水笠公園」で開かれた新長田北地区主催の「ふれあいまつり」に神戸長田ふくろの杜として参加しました。

水笠公園は神戸長田ふくろの杜から北へ徒歩2分ほどのところにある広さが約1ヘクタールもある大きな公園です。ふくろうの杜のある地域は、平成7年の阪神淡路大震災で甚大な被害を受けた地域です。いわゆる神戸の下町で、ケミカルシューズの会社や内職屋が多く、それに従事している人たちが生活の場としていた密集市街地でした。約60ヘクタールの地域が地震後、神戸市の「区画整理事業」の対象となり、その計画の中に盛り込まれた。緑の真ん中に緊急避難所指定を受けた大きなグラウンドを備え、地中に防火水槽が埋め込んだ防災公園です。

公園を作るために、そこに住んでいた人たち（水笠通り2丁目の住民）300数十人が立ち退きを迫られたらしく、公園には当時のまちづくり協議会と旧水笠通2丁目自治会が建てた「水笠通2丁目の碑」や、「新長田北地区　災害復興の碑」があり、その周りには、防火水槽から流れる人工川「せせらぎ」が流れています。

防火水槽の水源は長田区の北にある鷹取山からの湧き水で、それが「せせらぎ」となって街に流れています。この街に流れる「せせらぎ」は毎月、第2・第4日曜日の朝に地域の人たちが掃除しています。杜の職員も2名ずつローテーションを組んで、お掃除に参加しています。



また、子供たちの遊具が幾つも備えてあったりと、日ごろは地域の人たちの憩いの場になっています。

そんな地域の人たちの思いの詰まった公園でのイベントで、新型コロナの関係で、「ふれあいまつり」は4年ぶりの開催だということです。ふくろうの杜は先ずは実行委員会から出席。ふくろの杜が開所してからは初めての事です。

杜としては職員全員参加としましたが、日曜日とあって、結局、協力職員は22名となりました。20を超える販売ブースは物品が重複しないように実行委員会で調整されており、私たちの担当ブースは細田神楽ブースと本部ブースです。細田神楽部ブースでは「焼きさんま」の販売。240匹のさんまを炭火で焼きトレーに乗せ大根おろしとすだちを添えての販売です。

10時開始で昼過ぎには完売。お手伝いをしながら目に入った行列に半信半疑でしたが、試食をして、その美味しさに驚きです。本部ブースは案内やビラの配布、それから各ブースの売り上げの取り纏めの手伝いです。他に職員有志がみんなで出来る手話歌など手話パフォーマンスを披露。そして地域の手話サークルが舞台通訳と聞こえない人も楽しめるようにと配慮がありました。

熊本から来たくまモンのスペシャルステージも通訳付きで一緒に楽しむことが出来ました。寒いだろうの予想も裏切られ、楽しい秋晴れの一日を地域の施設として地域の行事の一翼を担えたことに、嬉しさを感じています。

（神戸長田ふくろうの杜
管理者　眞木崇江）

初めての参加です。本部の案内窓口を担当させていただきましたが、とても活気のある祭りでした。普段、放デイの子ども達と遊びに行くのですが、せせらぎ川の湧き水は公園内を流れ抜け、町中のせせらぎとなり、何事もなければ子どもの遊び場となりますが、震災の時に水が足りずに苦労した経験を伝えるアイテムの一つとして、これからも子ども達に伝えていきたいです。

（放デイ・山本芙由美）